

技報の発刊に寄せて

工学部・工学研究科技術部実施運営委員会
委員長 星野 善樹

現在、私たちの大学を取り巻く環境は、大きな変革を迎えようとしています。平成16年度から施行される独立行政法人化は、技術職員にとりましてこれまでになく厳しい状況となることが考えられます。今日まで技術部は、ある意味では海図なき航海を続けてきたと思われま。これでは、高性能の羅針盤があっても座礁を免れることはできないであろう。当技術部では、これらの現状を踏まえて、本年度当初から技術部組織改革の検討が行われ平成14年度4月1日から新生技術部が誕生しようとしています。日々の技術部長との対話のなかで「技術部あるいは技術職員の存在感を示して欲しい」と言う言葉を耳にしてきました。今こそ技術職員が一致団結して、存在感を大いに示す絶好の機会であると考えます。

さて、本「技報」は、各技術研究会、技術研修をはじめとして、1年間を通じて技術部の活動の成果を結実したものです。

本年度の課題技術研修は、技術部として省エネ対策に取り組み、専門技術研修では、6つの技術系毎の重要テーマについて行いました。それぞれの成果を課題技術報告、専門技術報告として掲載しました。また、技術研究報告は、学外の研修、技術研究会あるいは職務上の長たる技術等について発表されたものを掲載しました。本技報に目を通して頂き、評価や今後の指針等についてご助言頂ければ幸いです。また、技報は技術部の顔であると思います。その意味におきまして技報の更なる充実を図る所存でございます。

最後に、この「技報」を発刊に当たりまして、多大なるご尽力とご支援を賜りました工学部・工学研究科技術部長、各評議員をはじめ、教官、事務部、その他関係各位に心より厚くお礼申し上げます。